

**#2** 雅歌-キリストの花嫁の用意を整えるための、個別の信者とキリストとの愛の交わりにおける進展する経験  
**Bird's eye view** 12/19-25 雅歌は詩であり、その主題はすばらしい結婚における愛の歴史です。この歴史が啓示しているのは、キリストの花嫁の用意を整えるための、個別の信者とキリストとの愛の交わりにおける進展する経験の六つの段階です **A** 雅歌の第一段階で、キリストを愛する者は、引き寄せられキリストを追い求めて、満足を得ます。主は、彼の追い求める者が彼と個人的で、愛情深く、私的で、霊的な関係を持つことを願っています：雅1:2「彼の口の口づけをもって、私に口づけしてください！あなたの愛はぶどう酒にまさるのです」。4 私を引き寄せてください。私たちはあなたの後を走ります」。王は私を彼の奥の間に連れて行かれた。**1**「私を引き寄せてください」(雅1:4)は、個人的です。主は言いました、「私は人の綱、愛のきずなで彼らを引いた[引き寄せた]」(ホセア11:4a)。これが示していることは、神が彼の神聖な愛をもって私たちを愛するのは、神性の水準においてではなく、人性の水準においてであるということです。**B** 雅歌の第二段階で、キリストを愛する者は召されて、キリストの十字架との一を通して自己から解放されます：雅2:8-10 わが愛する方よ！ご覧なさい、あの方がやってきました。山々を飛び越え、丘の上を跳びはねて。わが愛する方は、もしかや若い雄鹿のようです。ご覧なさい、あの方は私たちの壁の後ろにじっと立ち、窓からのぞき、格子からうかがっています。わが愛する方は、私に答えて言われます、「わが愛する者よ、起き上がりなさい。わが美しい者よ、出て来なさい」。**1** 雅歌2:8~9は、復活の活力について語っています。これらの節でキリストは、「山々を飛び越え、丘の上を跳びはね[る]」もしかや若い雄鹿にたとえられています。山々と丘は、困難や障害を指していますが、復活したキリストを止めることのできるほど高いもの、あるいは大きいものはありません。私たちは、山を飛び越え丘を飛び跳ねるキリストの臨在を追い求め、知る必要があります。**2** キリストを愛する者は内省に陥ります。その内省は隔離する壁となって、彼女をキリストの臨在から引き離します。ですから、キリストは彼女を励まして起き上がらせ、彼女の低い状態から出て来て、彼と共にいるようにします。**3** キリストを愛する者はまた、主が彼女に休眠の時(冬)は過ぎ去り、試練(雨)もすっかり去ったと告げるのを聞きます。彼はまた、彼女に春が来たことを告げます。こうして、主は彼の復活の繁茂する豊富をもって、彼女に求め、彼女を励まします。雅4:12 わが妹、わが花嫁は、閉じられた園、閉じられた泉、封じられた源泉である。

**4** 私たち、キリストを愛する者たちは、天然の命によってではなく、復活の力によって、彼の十字架と一になることができ、彼の死に同形化されることができます。復活の実際は、究極的に完成された霊としての霊なるキリストです。この方は、私たちの再生された霊に内住し、ミングリングされています。このようなミングリングされた霊の中で、私たちはキリストの復活にあずかり経験します。この復活によって、私たちは十字架と一になることができ、自己から解放され、造り変えられて神の新創造の中の新しい人となり、キリストの有機的なからだを建造し、神のエコノミーを成就することができます。**C** 雅歌の第三段階で、キリストを愛する者は召されて、復活における新創造として、昇天の中で生きます。**1** 昇天の中で生きるとは、絶えず私たちの霊の中で生きることです。私たちは霊の中で生きるとき、天に昇天したキリストに結び付けられます。**2** 「ソロモン王は、レバノンの木で自分のために輿を造った。その支柱は銀、基は金、その座席は紫色の布で造った。その中に、『エルサレムの娘たちから愛を込めて』と縫い取りされていた」(雅3:9-10) **a** 私たちのその霊の造り変える働きによって、私たちは、キリストの行動する器、キリストの乗り物、キリストの「車」となります。それはキリストの行動のためであり、キリストの行動はキリストのからだの中にあり、またキリストのからだのためです。**b** 私たちは、神聖な三一をもって再建されます。それによって、私たちの外側の構造は、復活し昇天したイエスの人性となり、私たちの内側の飾りは、主に対する私たちの愛となります。**c** 私たちの内なる存在は、「愛で縫い取られる」べきです。主を愛することは、キリストを私たちの人性とする領域の中に私たちを保ち、彼の愛情が押し迫る中で私たちの人性を保護します。**d** 私たちが個人的な、愛情深い、私的で、霊的な方法で主を愛することを通して、私たちの天然の存在は取り壊されます。また私たちは、キリストの贖う死(銀で造られた支柱)、神の神聖な性質(金の基)、私たちの内側で支配する命を与える霊としてのキリストの王職(紫色の布の座席)をもって、改修されます。**3** キリストを愛する者は、復活の中の新創造として、キリストの昇天の中で生きることを通して、キリストの命の豊富において円熟します。それによって、彼女はキリストの園となって、彼に私的な享受を得させることができます。彼女は準備されて、どんな境遇や環境でもキリストの香りを放ちます。彼女は困難な環境(北風)と喜ばしい環境(南風)が園としての彼女に働いて、その香りが広がることを願います。**D** 雅歌の第四段階で、キリストを愛する者はさらに強く召されて、復活の後の十字架を

通して幕の内側で生活します: [雅6:13](#)「帰れ、帰れ、シュラムの女よ。帰れ、帰れ、私たちはあなたを見たい。」「どうして、あなたがたはシュラムの女を見るのか? 二つの陣営の踊りを見るように」。

**1**キリストを愛する者は幕の内側で生活することによって、造り変えられて天の光体となります。彼女は夜明けの光のように見え、月のように美しく、太陽のように明るいです: [雅6:10](#) 夜明けの光のように見え、月のように美しく、太陽のように明るく、旗印を持った軍隊のように恐ろしいものはだれか? **a**勝利者の路は夜明けの光のようであり、いよいよ輝きを増して真昼となります。 **b**夜明けの光、すなわち日の出は、キリストの来臨と私たちが毎朝復興されることを表徴します。クリスチャン生活は、太陽の出現のようなものです。 **2**キリストを愛する者は、キリストの命の中で円熟して、シュラムの女(「ソロモン」の女性形)となります。これが表徴しているのは、彼女が命、性質、表現、機能において(しかし神格においてではなく)キリストと同じになって、キリストの複製、複写として、彼と結婚するのにふさわしくなっているということです。 **3**シュラムの女は、神の目に、二つの陣営または二つの軍隊(ヘブル語「マハナイム」)の踊りにたとえられています。ヤコブは神の御使い、すなわち神の二つの軍隊を見た後、自分がいた所をマハナイムと名づけ、彼の妻たち、子供たち、所有物を「二つの軍隊」に分けました **a**二つの軍隊の霊的な意義は、キリストのからだの原則にしたがって、私たちが愛して下さった方を通して、私たちが勝ち得て余りがあり、「超絶した勝利を得る」という強い証しです。 **b**神は自分自身の中で強い者たちを欲していません。彼は弱い者たち、すなわち比較的弱い女と子供だけを欲しています。勝利者となるのにふさわしいとされる人は、主に依り頼む比較的弱い者たちです。 **e**雅歌の第五段階で、キリストを愛する者は主の働きにあずかります: [17:4](#)においてその霊が述べている愛し追い求める者の美しさは、神のみこころを完成するための、その霊の造り変える働きによって苦難を通して造り込まれる彼女の服従する意志(首)における美しさです。また、光に対して開かれており、清く、安息に満ちており、近づきやすい彼女の心の表現における美しさです(目ははとのようです)。また、高度で鋭敏な識別力を持つ彼女の霊的感覚における美しさです。 **2**雅歌7:11によれば、キリストを愛する者は、一つの場所から別の場所へと寄留する(村里に宿る)ことによって、彼女の愛する方と共に、全世界(野)のための働きを遂行することを願います。これは、彼女が主の働きを完成することにおいて、分派的でないことを示します。彼女は

働きを開放し続け、他の人がそこに来て寄留することができ、彼女が他の所に行き寄留することができるようにします。これは一つからだにおける一つの働きを保つことです。 [雅7:11-12](#) さあ、わが愛する方よ、野に出て行って、村里に宿りましょう。私たちは、早く起きてぶどう園に行き、ぶどうの木が芽を出したか、花が咲いたか、ざくろの花が咲いたかを見ましょう。そこで私の愛をあなたに与えましょう。 **3**主の働きにあずかることは、主と共に働くことです。主と共に働くために、私たちは命における円熟を必要とし、主と一になる必要があります。また、私たちの働きは彼のからだのためでなければなりません。 **4**シュラムの女はソロモンの配偶者として働き、すべてのぶどう園、すなわち、全地の諸召会と信者たちを顧みます。私たちは全世界のためである働きを持たなければなりません。これがパウロの行なったことであり、彼は諸地方召会を設立し、それから働いて、諸地方召会をキリストのからだの満ち満ちた実現の中へともたらしました。 **5**雅歌7:12は言います、「私たちは、早く起きてぶどう園に行き、ぶどうの木が芽を出したか、花が咲いたか、ざくろの花が咲いたかを見ましょう。そこで私の愛をあなたに与えましょう」。この時点で、彼女は主の働きと主ご自身を結び付けることができます。今、彼女は主の働きの中で、主への彼女の愛を表現することができます。 **f**雅歌の第六段階で、キリストを愛する者は携え上げられることを望んでいます。彼女は「自分の愛する方に寄りかかって」、荒野(地的な領域)から上って来ています: [雅8:5-6](#) 「自分の愛する方に寄りかかって、荒野から上って来る者はだれか?」...「私をあなたの心に印のようにし、あなたの腕に印のようにしてください...」。

**ii**この詩的な書の結論の言葉として、キリストを愛する者が祈り求めるのは、彼女の愛する方が復活の力(かもしかと若い雄鹿)の中で急いで戻ってきて、全地を満たす彼の甘くて美しい王国(香料の山々)を設立することです [雅8:14](#) わが愛する方よ、急いでください。香料の山々の上のかもしかや、若い雄鹿のようになってください。 **A**そのような祈りは、花婿としてのキリストと、花嫁としての愛する者との間の、新婚の愛の中にある結合と交わりを描写しています。それは、キリストを愛する者であるヨハネの祈りが聖書の結論の言葉として、神の神聖な愛の中にあるキリストと召会に関する神の永遠のエコノミーを啓示しているのと同じです。 **B**「主イエスよ、来たりませ!」は、聖書の中の最後の祈りです。全聖書は、主の再来に対する願いが祈りとして表明されて終わっています。 **C**「主が来られる時、信仰は事実となり、賛美は祈りに置き換わります。

**CP1**天然の命によってではなく、復活の力によって、彼の十字架と一になり、さらに主を追い求める**1**雅歌は詩であり、その主題はすばらしい結婚における愛の歴史です。この歴史が啓示しているのは、キリストの花嫁の用意を整えるための、個別の信者とキリストとの愛の交わりにおける進展する経験の六つの段階です**A****第一段階**で、キリストを愛する者は、引き寄せられキリストを追い求めて、満足を得ます。主は、彼の追い求める者が彼と個人的で、愛情深く、私的で、霊的な関係を持つことを願っています。**1**「私を引き寄せてください」(雅1:4)は、個人的です。主は言いました、「私は人の綱、愛のきずなで彼らを引いた[引き寄せた]」(ホセア11:4a)。…神は人の綱を通して私たちを引き寄せますが、その人の綱は、キリストの肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天を含みます。**2**「私に口づけしてください」(雅1:2)は、愛情深いのです。私たちはキリストを信じて、彼を神聖な命として受け入れた後、キリストを個人的で、愛情深い方法で愛する必要があります。…詩篇2:12は、私たちに「御子に口づけせよ」と命じています。**3**追い求める者はキリストを追い求める中で、彼によって至聖所としての彼女の再生された霊(彼の奥の間-雅1:4)に連れて行かれ、彼との交わりを持ちます。**5**すべての霊的な原則が、雅歌における追い求める者の勝利を得る生活のこの第一段階の中に含まれています。続く各学課は新しいものではなく、より深い方法で繰り返された古い学課です。再生は神の遺伝子を私たちの中へともたらし、私たちのクリスチャンの全生涯のすべての経験は、この遺伝子の中にあります。**B****第二段階**で、キリストを愛する者は召されて、キリストの十字架との一を通して自己から解放されます:雅2:9-10 わが愛する方は、もしかや若い雄鹿のようです。ご覧なさい、あの方は私たちの壁の後ろにじっと立ち、窓からのぞき、格子からうかがっています。わが愛する方は、私に答えて言われます、「わが愛する者よ、起き上がりなさい。わが美しい者よ、出て来なさい」。**1**雅歌2:8~9は、復活の活力について語っています。これらの節でキリストは、「山々を飛び越え、丘の上を跳びはね[る]」かもしかや若い雄鹿にたとえられています。山々と丘は、困難や障害を指していますが、復活したキリストを止めることのできるほど高いもの、あるいは大きいものはありません。**2**キリストを愛する者は内省に陥ります。その内省は隔離する壁となって、彼女をキリストの臨在から引き離します。ですから、キリストは彼女を励まして起き上がらせ、彼女の低い状態から出て来て、彼と共にいるようにします。**4**私たち、キリストを愛する者たちは、天然の命によってではなく、復活

の力によって、彼の十字架と一になることができ、彼の死に同形化されることが出来ます。復活の実際は、究極的に完成された霊としての霊なるキリストです。

### 適用:青少年・大学生、新人編

**証**私は大学一年の春に救われてから直ぐ、主を愛し、召会のすべての集会に参加しました。しかし最初の頃、主が私を助けてくださるとの宗教的な観念が強く、自己を否むことができませんでした。そうすると、主との愛情深い甘い関係が減少していきました。その後も何度か、主は私が主の中で前進するように私を召しましたが、私は鈍感になっていて召しに応じませんでした。

大学3年生の冬休みの時、台湾の召会訪問の期間に、主の召しに応じて献身しました。その時に、今まで何度も主の召しに応じていなかったことを照らされました。私はどうしようもないくらい主に対して鈍感になっており、病んでいることが分かりました。このことに気付いたので、主との個人的な交わりをするようになり、度々自分の罪、欠点、短所を告白しました。告白することが多くあり過ぎるので、自分に失望し、落ち込んでいました。それは、自分ももう少し良いと考えていたからでした。このようにして、私は召しに応じた後、度々、内省に陥っていました。

大学院とその後の全時間奉仕の時、リー兄弟の本を読んで主と交わりながら、著者であるリー兄弟にも独り言で話しかけました。例えば、「リー兄弟、あなたはこの聖書の個所に大変興奮して、喜んでいてます。しかし、私は何も感じません。あなたは間違っていないと思うので、間違っているのは私です」。そして、主に対して、「主イエスよ、私はなぜ何も感じられないのでしょうか? 私の霊的な触角は折れています。私の触角をいやしてください」と祈りました。私はこのように、主との親密な交わりを深めていきました。そうすると、内側に小さな信仰が出てきて、「私がどんなに病んでいても、私がどんなに弱くても、主は必ず私をいやし、強めることができるはずだ」という感覚を持つようになりました。最初は半信半疑でしたが、私は信仰の霊を活用し、魂の中の疑いを無視して祈りました、「アーメン、主よ、私はあなたの言葉を信じ、私の感覚を信じません。私が主の語り掛けに対して鋭敏な感覚を持つことができますように」。このようにして、私は少しずつ前進し、主の後に付いて行くことができました。

**祈り**おお主イエスよ、主が私を愛し、引き寄せてくださったことを感謝します。さらに日ごとに私を引き寄せてください。自分の弱さを見て、落ち込む自己内省は、私を主の臨在から遠ざけます。自分を見るのではなく主を見つめ、主の復活の力によって十字架を経験し、さらに主を追い求めます。

**CP2** 主の再来を待ち望む詩歌を歌い、主に引き寄せられて、勝利者の携え上げを切望する

**I** 雅歌は詩であり、その主題はすばらしい結婚における愛の歴史です。この歴史が啓示しているのは、キリストの花嫁の用意を整えるための、個別の信者とキリストとの愛の交わりにおける進展する経験の六つの段階です。**C** **第三段階**で、キリストを愛する者は召されて、復活における新創造として、昇天の中で生きます。**D** **第四段階**で、キリストを愛する者はさらに強く召されて、復活の後の十字架を通して幕の内側で生活します。**E** **第五段階**で、キリストを愛する者は主の働きにあずかります。**F** **第六段階**で、キリストを愛する者は携え上げられることを望んでいます。雅8:5-6「自分の愛する方に寄りかかって、荒野から上って来る者はだれか?」。...「私をあなたの心に印のようにし、あなたの腕に印のようにしてください...」。

**1**「愛する方に寄りかかって」が暗示していることは、ヤコブと同じように、彼女のものつがいに触れられて、彼女の天然の力が主によって対処されたということです。**2**「愛する方に寄りかかって」が暗示していることはまた、彼女が自分がひどく圧迫されていることと、これが荒野の行程が終わるまで続くようであることを見いだしているということです。**3**彼女は彼女の愛する方に、彼の愛の心と彼の力の腕によって彼女を守ってくださるようにと求めます。この時点で、彼女は自分の無力さと、望みのなさ気づき、すべてが神の愛と守る力にかかっていることを認識します。**4a** 私たちが私たちの愛する方である主のために働くとき、私たちと彼との交わりを維持し、常に彼に聞く必要があるということです。**c** 信者たちの一生は、すべて主の語りかけにかかっています。

**適用:ビジネスパーソン、大学院生編**

### 756 主の再来を望む

- わが王はさいりんし、万ぶつは復こうし、宇ちゆうはあがなわれ、すくい完成する！われはくものなかの 主のあしおと聞き、主の栄光のひそかな、あらわれを見る。
- 主の「臨ざい」をのぞむ、主がさいりんして、われに天を得さすよう、われ待ちのぞむ。すばらしい臨在のなか あること以がい、こころのしたうもの、われは持たない。
- こころ、もう天にあり、目はただ主、見つめ、くちは主に会うこと、ひたすらかたる。主のさい臨は間ぢか、それはわれのため；主のやくそくは不変、かならず成就す。
- 主のことばは不へん、かんぜんでかん備、そのことばをもって、われをはげます。なが栄こうあらわし、てきを打ちやぶり、ながやくそく成就し、われ、むかえませ。

- すくいぬしうでは、われのさけどころ！なれにたよるものを、みなまられる；主はひつじをとうとび、からだ、ひつ要とす；だれもなれの手より、うばうものなし。
- もはや千万のひとも、われをさまたげず；路上のいばらさえも、わがえきとなる。こころ、れい、復興せよ、この世を去らせよ；いのちの主よ！来ませ、われ、なれを待つ。
- いやす太陽、のぞみよ、ながひかりあいす；こう義の主！栄光の王！われはひれ伏す；主よ、とく御座に着き、御かお照らしませ！万民にめぐみあたえ、王こく建てませ！
- 真理はおうであつて、自由は王妃である！虚偽がたけりくるい、世のきみとなる！されば真理よ、来たれ！天のひかり帯びて、主よ、来て主の子らを、主にむかえませ！

私たちが主を信じて救われた後、一方では私たちの内側に得た神聖な命の要求により、もう一方で私たちの主に対する愛の切迫により、私たちは主が来られるのを待ち望む生活を追い求めたいと心から願います。聖書に啓示され、預言されたことに従って、私たちはこのように主を愛し、主を待ち望む生活の中で、主の御前に携え上げられ、主と相まみえ、喜んで集まることを期待します。

携え上げには二種類あります。勝利者の大患難の前の携え上げと大多数の大患難の後の携え上げです。主の回復の中の私たちは、勝利者となり、大患難の前の携え上げを熱望すべきです。

**証** 医療機器の臨床試験を行っていた時、大きな困難に遭い、途方に暮れ、多額の投資が無駄になるのではと思い、落胆していました。その時、この詩歌を聞き、歌っていると主の愛に引き寄せられて、涙が溢れてきました。主を熱烈に愛し、神のエコノミーの中心点である勝利者の携え上げにあずかることに焦点を合わせることができました。そうすると、複雑で困難に満ちた仕事の環境に、単純に積極的に、立ち向かうことができました。問題だけを見ていると、崩壊の堆積でしたが、神のエコノミーに焦点付けられることで、臨床試験も正しい立場に置かれ、神聖な秩序の中でそれを見ることができました。その後、主は不思議な方法で問題を解決してくださいました。主に引き寄せられることが、私のビジネスにおける真の突破力です。

**祈り** おお主イエスよ、主を愛し、主を待ち望む生活を追い求め、勝利者として携え上げられることを願います。絶えず主の愛に引き寄せられ、主の再来に焦点付けられる時、複雑で困難な環境に単純に立ち向かう力を持ち、命の中で支配することができます。主よ、さらに私を引き寄せてください。